

筑波移転粉碎・教育 大民主化まで全 学ストでたたか おう！

臨時学生大会提案

筑波粉碎・教育
大民主化まで全
学ストでたたか
おう！

10.30

提案責任者：服部（哲2）山内（国3）

筑波移転粉碎に向けて我々の六項目の要求

- ① 6.20 調査ヒ計上白紙撤回。本館封鎖対策本部解散。
- ② 評議会教授会団交要求。
- ③ M·Pを解散。6.10 土地確保、6.19 意向表明白紙撤回。
- 筑波粉碎。
- ④ 学長、千学部長、評議員の自己批判及び辞職。
支教授会 28名自己批判及び辞職。ヨラ教授会の確立。
- ⑤ 全学協議会設置、教育大全面民主化。
- ⑥ 文部省の直接介入粉碎、反動的大學立法粉碎。
教授会評議会は抗議声明を出せ。

はじめに

水田の学生大会は、前回の学生大会の時と比較して、教育大をめぐる慣習が一層重大化している中で開かれている。

一、學内の反對フリーライブは決にかたんでも教育大臣の鐵波にもつていこうという策動を一貫して続けてゐるが、特に灘尾文部大臣の發言に見られるようなくては極めて重大である。この事実は、我々が一貫して主張してきた鐵波斗争の戻の敵が政府文部省であることを全学友の前に改めてはつきり示すと共に、今の斗争を明確に対政府文部省との争いにまで高めらるべきがあること、その為に他学部自治会や全国の学友と團結し、全學連に結集して斗かねばならぬといことを示している。その点で **10・4**、**10・11** の文部省デモ **10・21** 全學連統一行動の圧倒的成績は大きな意義を持つてゐる。今政府文部省によつて全国の大学に対して大学への直接介入や教育特別措置法などの新たな攻撃が強まる中で、二の様な教育大の政府文部省に対する斗いは、全国の大学の先頭に立つものである。**10・21** 斗争では、教育大から700名の隊列を送りだし、全都で1万5千の結集を力ちり断固たるデモ、文部省前坐り込みを敢行し、政府文部省に直撃、群衆の大打撃を与えた。我々は**10・21** 斗争の成果を土台として鐵波斗争を更に発展させなければならぬ。

二
う、全都全国の50數大学で学園斗争が斗われてゐる。先に述べた様に、政府文部省の反動的で貧困な文教政策にこそ、それからの学園斗争の起る根源がある。それ故これらの斗争が対政府文部省への斗争へと急速に発展しつつあるのだが、同時に特徴的ることは、その斗争が、基本的には政府文部省のしり馬にてつて大学政策の矢をかづく学内反動による攻撃を打ち破るいわば防御の斗争から、明確に学園を民主化してゆこうといふ学園民主化といふ攻撃の斗争にまで高まつてゐる事である。富山大、名大では具体的成果を勝ちとつてゐるが、我が教育においても、この六年間の移転審議を白紙に戻し、一貫して大学自ら、学内の民主主義を破壊して来た学内反動をこの学園から追放し、学生の大學生の管理運営への参加を含む学園民主化を望む声がかつてなく高まつてゐる。更に二の回の斗争の中で、筑波移転そのものに反対する学友が序調に生みだされてきて、主学連に結集して全国の学友と共に断固として斗うとともに、教育大における学園民主化の内容とその実現の展望を明確化し、二の学園民主化の課題

学友諸君
既設初等・中等民主化六項目の要求貫徹まで
全學無期限ストで斗かおう!

必要がある

四 現在、我々の中には様々な混亂、困難が生じ、我々は、これらの諸困難の根本的原因は、政府部省及びそれと結託した学内反動の攻撃にこそあることを明確に認識しなければならない。同時に、これらを克服する道は、我々が断固として斗いに決し、勝利の力は全學の戦斗的なる統一と团结に二あることを確信し、それをめざして我々の前に立つて闘争を反動との激戦で争いの中で一つ一つ乗りへ

題をやり遂げていいく必要がある。

才三音下 情勢

△内国外の情勢

ベトナム人民の勇敢な斗いに、敗北を重ねるアメリカはパリ会談で偽善的な「和平」を主張しつつ、一方では、北爆をさらに押しすすめようとしている。来月にはアメリカ大統領選挙が予定されている。ハニクリン、ハンフリー共にベトナム侵略政策の継承を露骨に表明している。国内では日米軍事協議会が設置され、安保の自動延長強化の策動が進められようとしており、又沖縄返還斗争をめぐる当面の環として沖縄三大選挙が現在激烈に斗われている。前回にあける一部学生集団の行動に対して騒乱罪が適用され、さらに運動予備罪教説の動きがみられる。消費者、国民生活の面に目をむけるならば、物価の値上がりはとどまるところをしらず、東京都の九月の八月に対する物価指数は4%にものぼり、中小企業の倒産も九月には更に累計一万件をこえた。それに対して大企業の廻さんはさらに独立化をおこすすめられ、いわゆる大型合併をすすめられてきる。

明治百年祭なるお祭りが盛大におこなわれたが、これは国民への反動的なテオロギーの注入、思想的支配の悪化としてある。その犯罪性は侵略戦争である太平洋戦争を美化し、日本大日本主義をぶりかかし、歴史文化論を展開することによって、日本を再び戦争へ導くやううとするところにあった。即ち戦後民主主義を否定し、天皇制イデオロギーを注入することにより、日本独占資本の東南アジア侵略の野望を国民全てを引きこまることによって裏切しようとしているのだ。

これら政府の反動的政策に対して我々学生、労働者の斗いは着実に進んでいる。十八斗争（公務員共斗統一スト）において、本学では教職組が始めての学内集会をもち、十二斗争においては先進的な日労の生産急におけるボタン輸送拒否の斗いをはじめとして全国で多くの労働者がたちあかり戦闘的に斗った。金学連は、この日全日本33大学の自発会で一斉ストライキを行し、東京では一万五千人の大示モニストレーションが展開された。この斗いの成果をふまえての年の安保再検討期を前に、士・三安保廢棄の全人民的斗いが準備されてきる。

△大学をめぐる情勢

佐藤首相は十月一日の閣議で、大学紛争について、「政府は政治問題として治安と文教行政両面から積極的にとりくねべきである」と述べ、さらに首相の諮詢会議「大学問題懇談会」を発足させようとしている。

新安保締結以後その経済的基礎の強化をめざした「高度経済成長」政策をすすめられてきた。独立資本は大手研究会の不足につけ込み、産業界の大学への資金援助等の「産学協同」をすすめているし、米軍資金援助受け入れによる研究が二十五大学でおこなわれて

いる。そしてこうした米日反動の大蔵支配を円滑にして、同時に学生運動を「治安」の対象として弾圧するため

に政府、自民党は大学の管理体制を反動的に強化し、官僚統制の実質化をはなってきた。そして一部学生集団の行動を口実に、これを巧く利用しながら、かれらは学生、院生、教職員の大学民主化斗争と自治権の斗争を押収してきた。30億円以上の「使用不明金」の要求をめぐって決起した日大の学友、不当処分、官憲の導入に反対してストライキで斗つている東大など

現在の学園斗争は学園の徹底的民主化を求めるところまで発展してきている。現在全日本の大学のあつての学園斗争の根源は安保体制下にあって、反動勢力が大学を戦争と侵略、軍国主義復活の重要な道具として利用しようとすると攻撃に対し、学園の自由、大学の自治を守り、大学を「平和と民主主義の塔」にしちゃうとする学生、教職員の一歩も退かない、正面きた斗争であり明確に政府文部省と対決する方向性をもつものといえる。

△教育大のつくば移転をめぐる情勢

●政府文部省の直接介入と学内反動の拡大

10・21斗争で庄倒的なテモ、曲固たる文部省の「十二」は、学生座題だけではなく、教職会など太学内部の問題である。へ筑波に移転しないことを一大學が決めたら、文部省が同調すると考えるのはスジ違いであり、太学としては醜態だ。直く教育大に直接に抗議するつもりだ。と述べていることは、政府文部省が教育大を学園都市の中核として何としてでも移転させようとしていることを示している。そして大学自身の廢棄の中でも移転した際のつくば大學の姿をどこにあるわけだか、教育大の統廃合を行つとしているのだと、そして篠尾発言の数日後、文部省内にて眞清義典を中止とす。移転賛成の署名があつめられたことの意味を考へてみるとならば、福田H・Y秀喜長の「こんながだるく浦つて太学は直ちに封鎖し、全学生、全教員に辞めをもつてから、眞の大學の再建に棄出されに方法はない。」（篠尾発言11月号）という発言を考えてみみなら、反動教官の文部省とのつながりは明らかだろう。

更に十月十五日、五十名の下初教室が集まり、④もしできなければ、文部省を封鎖する。

③交換条件に本館封鎖解除、スト解禁

④もしきこなければ、文部省を封鎖する。

○今年の調査には對上しない。

旨が確認され、17日の評議会に提出される予定であったが、結果的には提出されなかった。しかし反動の彼らは文学部府賃、國家权力の直接支配であることは誰も否定できまい。

・学園民主化斗争の前進と学生の運動参加
1月富山大経済学部（全學連加盟）では、「学部運営に学生の意志を反映させる」ことを目的にし、教官と学生がカリキュラムや厚生福祉などを話し合い、教官の仕免、採用、昇任についても學生側が希望を述べ教授会の説明を求めることができる。」教官と学生による二者協議会を設置した。

東大でも協議会設置という学生の要求が多く、学生の团结がすすんでおり、日本學術會議も十月「大学運営は化石化してゐる眞理を覺びたい」という意欲に燃え、学生の気持ちくみあへよう」と総会で学生の大學運営への発言参加をとり上げた。今や大學問題が社会問題、政治問題となる中で、一方で大學の一身の反動的再編を企む力と民主勢力による学園の民主化の要求が全目的に激しくぶつかりあつてゐるのである。

・学生の斗争の前進

文部省の百数十日にわたるストライキの中から、昭和4年1月には粉碎、学園民主化の要求をかねて各学友の誓約、理応生大会の結果状況、そして28日農学生大會において五六〇名といふ圧倒的多数の結集をかちとり、しかも農業を可次りていくという状況は、我々学生の斗争の前進を如実に物語るものである。だからこそ、今我々がつくは多民族、教育大民主化、を自分たちの要求として、どうえなければならぬのだ。

・各々の斗争

ハ教務会と理農部をはじめ、他学部へ、懇談会を通じての協力がなされんに行なわれてゐる。
ハ自己、手工商、封建的禁教思想にあつた助手会員たちあつなり、ティーチイン無能を予定するなど積極的に前進出している。
ハ農生、工芸生、農業を含む斗りに、各学部毎にたちあつたり、改選を追求していふ。

オニ二章 総括

オ一節 10・21全国学生統一行動の成果

この日全国三十一大学、六十八自治会が安保破棄、沖縄三大選挙勝利、ベトナム人民支援などスローガンとともに教育大、東大、日大斗争勝利、学園民主化教育予算丸腰額、文部省の不当な手筋反対などの要求をかかげてストにたちあがった。統一行動に参加した学生は全国で5万、中央集会には約1万5千、教育大でも700名文學部200名と安保斗争以来の大きな統一行動となつた。われわれは戦斗的で規律ある集会、デモを行ない、文部省前に一時廻すわり二み、我々の要求をつづけていった。

教育大ではこの間、オ一浪（一五〇）、オ二波（三五〇）の立部省デモ、教育大を中心にして文京六大学発起集会（約600名）と10・21はこうしたヨイの連長線上にあった。このことはこれまでの政府文部省の教育大介入の事実、学園民主化の要求から我々の斗争のは二先を政府文部省にむけることの必要性が確認されたからに他ならない。10・21斗争は、全国の学園斗争が心に學内反動尼にほこ先をむけるにとどまらず、その背後の麻政府文部省にむけられたばかりに發展したこととおしたのであり、そのことがまさに政府文部省があそれていたものである。それだけに10・21は政府文部省に少しきらめ打撃を与えたのであり、それは同時に各學園で反動をおいつめていく上で有利な条件をさくじらうことになつた。教育大でも理、農の学生大会に600名をこえる学友が参加し新になたかまつをむかえたことは、10・21の成果にうらげられていい。

こうした重大な意義とともに10・21の統一行動に背をむけ、新宿で音頭挑発をくりかえし、反動勢力に囲んで昇用を尋ねる条件を与えて、彼らが70年をひかえて民主勢力への弾圧にやつさになつてゐる時、陰に陽に呼応し、挑発した、中核、草マル、フロント、社学同等の反全學連諸系の策動を断じて許すことはでこなれ、文學部でも、我々の学生大会要求署名をにぎりつぶし國若会規約を裏向ふらじゅうりんし、筑波と反戻反対を機械的にミケはなし、結局は斗争を放棄した文斗委事務局の行動を糾弾する。

オニ二節 築波をめぐるこの間の総括

ア・10・21文斗委事務局は破産した

この両の理、農を中心とした四學部の学生にくらべ文斗委の路線は明確にゆきづまりとみせ斗争をそらすものでしかなくなつた。9・25学生大会以降、文斗委事務局は黒指導、魚方針、無願望の三無主義におちいり、倒とかして本館封鎖を守り、敵のでてくるのを待つてゐるという。本館封鎖しがみつきでしかなかつた。文學部の学生の斗うエネルギーと本館封鎖に封じこめられ、やうことと、えびピケットと夜のハトローラしか見えられず、弛緩した状態と物理的戰術アップでさりぬけよつとすきが柱で単純な理論から正門バリ

ケードボなされた。これは何う正式は決定ではされにものではなく自己満足にすぎない。

文斗委の斗争破壊、指揮

ここに指摘しなければならないのは文斗委事務局が他中に他學部のたご看玉破壊しにうづらさをしていた学友に暴行を加えたり、文農學部執行部代表が学長に会見の途中、ボス交である」ということで破壊してしまい、そのあとで數十名で友人をヒリかこんで、自己批判書はるひを頒布するといつたことを行なつてさだ。この種のいくつかの事件の中でひとつ助手会ティーチ、インの問題にふれておこう。我々は助手会のこの提案を、筑波に対する立場のありもいべきも立ちつても、これまでにない積極的な動きとみなし、そこへ参加して行く中で我々の立場をどしどし入れていこうとしていた。しかし彼ら文斗委はこの問題について申し入れのあつた12月以降一貫してボイコットし、何う大衆的にあらかにしようととはせず、「お詫しめいシナンヨンスであるとして、振りつぶそうとしてさだに、しかしながら当日集つた数百名の学友の前に彼らは完全に孤立してしまつたのである。

われわれの斗いの前述

この様に、文斗委事務局の斗争放棄及び、斗争妨害の中に、我々はそれをのりこして、この間大々く斗いを妨害させた。オ一になによりも全學統一ストライキを発表させると、この立場から、他學部執行部の提起する行動に参加し大々く成功させ、又、二回にわたり文部省デモと並行して斗つた。又評議会にかけつけ、国交要求行動をおこし、学生委員のあっせんの確約ととの成果をからだつたのである。このような全學的な斗いの前進の中で、11月二十五日農教授会は調査員計上白紙撤回声明を出すにいた。これは文斗委のよう「本館封鎖によるインバクト」ほどではなく、まさにねぎりづよく徹底していいる通り、あの白紙撤回声明は、農教授会の自己批判であり、民主化のオーバルであつたといえる。その後の農學部の斗いはめごましいものであり、教授会団文とおこし、学生委員のあっせんの確約ととの成果をからだつたのである。このようない全學的な斗いの前進の中で、

もはや路線の変更なくして斗いの前進となつた。

イ・筑波行部提案と正側的に可決した

農學部に代表される斗いの成果と、文學部の斗いと比べる時文斗委事務局の本館封鎖戰術の破綻は明白である。それは彼らの路線そのものの破綻である。彼らのと、日本館封鎖戰術は、本館封鎖という物理力のみを唯一の力とし、すべての手段のエネルギーを全面的に發揮させるような斗いをくじのではなく全エネルギーを本館封鎖に封じこめることによって真に斗う意図をつくりあげる二とかでさなかつたのである。そして文學部四十名の署名にみられるよくな文學部反対系の分断運動に向ら明確に対処しえず、又10・15日の農學部での反対系の志志崎一

の内容（情勢部分参照）にまさにまれ斗争と歪曲させ
ていこうとする。又全学斗ナツケ上げにみられる三ヒ
く、本館封鎖を認めるものだけセクト的「斗争」を行
ない学内各局への働きかけ全く放棄してさうに。助
手会院生の中にあらわれてさうに積極的動きも何ら許され
せず。こうしたナレを敗北に導く諸君はまさにのうこ
ふるべきであり、我々は、ケ・ビ立斗委事務局とは、
は、メークと区別し、競演移転粉砕、大學民主化の主い
をさらに大きく下すめよつてはないか。

第三章 筑波斗争勝利のため、 斗う方針

1
妥協とあきらめを排し筑波粉碎、教育大民主化をめざし、六項目要求実現まで、断固無期限ストで斗おう！

私達の要求する六項目の要求

① 6・20 調査費計上白紙撤回 本館封鎖対策本部

解散

評議会田文要求

② MP委員会解散、MP委員各自の自己批判辞取
要求

③ 6・10 土地確保、6・19 意向表明白紙撤回

④ 筑波粉碎
学長、千学部長、評議員辞職、文教授会28名自
己批判辭職要求

⑤ 教授会自己批判と斗う教授会の確立

教育大の自治制度の全面的民主化

▼至大学構成員を大学自治の担い手として認め、
學内各戸の自治組織に団文权と拒否权を認める事

▼至學協議会を設置し移転問題をはじめとする全
學的問題、予算配分权、施設管理、重要な人事問
題、カリキュラム編成について協議会に最終決定
权をおくこと

▼大學、学部の代表となる学長、学部長の選任权
を至大学構成員がもつこと

↑
情勢部分で明らかにしたように、10・21 斗争以降、
私達の斗いの目標、斗争のはこ先は一層鮮明に浮かび
上がってきている。

10・21 至國学生統一行動に参加した一万五千の学友
が情勢を事実に基いて科学的に判断し、正倒的に確認
したよう、現在の大学紛争の根源は新安保体制下に
おける政府、文部省による大學を戦争と人民支配の道
具に利用しようとする反動的で貧困な文教政策にあり
さらには、大學内部における一部反動教官、官僚による
反動行政への迎戻とそれにより生じる大學運営の非
民主性にある。そのような政策と大學の現状は、勉学
条件、生活条件の改善を要求し社会の民主的発展と歴
史の進歩に賛同する學問研究を願う學生、大學の構成
員の眞の要求と決して相入れない故に深刻な矛盾が存
在しているのだ。

そして反動勢力とその出先機関である政府、文部省
がそのような矛盾の正しい解決のために立ち上がりた
廣はんな學生の斗いを押ししつぶし、弾圧し、10・21 罷
尾発言、などに胡亂に見られるように大學の更なる反
動的再編を企んでいたのが大學をめぐら新たな情勢の
特徴なのだ。

それは、教育大の筑波移転反対斗争に対しても文學
部内閣の企みや、文部省の直接警告などの卑劣に如実
に示されている。

筑波移転反対斗争の勝利に向かつ我々の前に立ちふ
さがる敵は教育大のとりつぶしを自ら築く學内上戸部
一部反動教授グループと政府・文部省であることを承
認試し、斗争のほこ先を彼らに向けてゆく必要があ
るだろう。

筑波移転白紙撤回、筑波移転粉碎まで斗おう

現在追いつめられた反動が、一方で文學部内閣
大學内閣という強硬路線を打ちだしつつ、一方で文
事務局との商取り引きによつて、斗争を反動的に終
結させようと狙つてゐる時、我々はその獲得目標を
もとめよう。

調査費計上の一時凍結などではなく、また単に6・20
計上白紙撤回を当面からちとりそのエネルギーを斗争の
意義と方向性に対する深い自覺によつてさらに高め、
委事務局との商取り引きによつて、斗争を反動的に終
結させようと狙つてゐる時、我々はその獲得目標を
もとめよう。

教育大の全面民主化めざして斗おう

筑波移転計画の本質と、この間の政府、文部省によ
る教育大直接介入の事実を見るならば、筑波移転白紙
撤回の斗いは同時に、政府、文部省の介入に反対し、
一切の介入、また反動的文教政策と対決し、教育大を
平和と民主主義の砦に変えてゆく、教育大民主化の斗
いなのだといふことは明らかだろう。今、我々は、筑
波粉碎のスローガンと共に教育大を平和と民主主義の
砦に作り変えてゆく學園民主化の旗を高く掲げ、學
内反動・政府・文部省と真正面から対決してゆかなく
こはならないだろう。

教育大民主化のためのオIの課題は、學内における
筑波移転進行推進の主勢力であり、自治破壊、民主主
義破壊の張本人であり現在の事態の全ての責任を負つ
三輪・福田・小林らを中心とする學内反動の辞職をか
らとり、教育大から放逐してゆくことである。この段
階で、学長、四学部長、評議員の自己批判をさせ、辭
職させ、そのような事態を許した教授会全体を自己批
判させ、斗う民主的な教授会を確立してゆかなくては
ならない。

民主化のオIIの課題は、今までのよだな事態が今後
一切ひきおこされぬよだな制度的な保障——教育大の
自治制度の全面民主化を勝ちとつてゆくことである。
この課題については情勢部外で明らかにしたように
現在伝統的な民主勢力、世論の要求をないつたり、
具体的には全學連に結集して斗う、名大につづいて富
山大においてもかちとられた課題であり、全學の構成
員が團結して斗うならば必ずかちとれる課題である。
当面我われは新たな大學自治の、六項目の要求の(7)の
内容を要求し、実現してゆこう。(次頁につづく)

⑥ 文部省の直接介入粉碎
反動的大学立法粉碎

教授会・評議会は抗議声明を出せ

このような自治制度の確立は学内各層の斗いの自由と
自らに基づき、教育大の自主的、民主的發展を保障する
を旨となり政府・文部省の一切の反動文教政策を打
ち破ってゆく力となる。このようないくつかの事
件がかかるとられた時、教育大は平和と民主主義の
力強い砦として存在し日本の民主的變革に大きく寄与
することになるだろう。

文斗委事務局の改良主義と日和見主義路線を粉碎しよう

以上の我々の斗いの總路線を高くかげた時、學園
民主化の深い意義を知らず「ナンセンス」と叫んでい
る斗争委事務局系諸君の、6・10白紙撤回まで斗うと
いう路線がいかに日和見路線であるか、鮮かに浮かび
上がってくるではないか。彼らは反動教授の追放を言
うこともしない、また10・21統一行動の意義を理解で
きず、反安保と筑波斗争の有機的関連をとらえず、
機械的に切り離した彼らは、この斗争の中で決して政
府・文部省と対決しようとはしない。

さらにも、10決定白紙撤回の後どういう教育大をつ
く、でゆくのか、彼らは「反獨占的自治と空龍をふり
まわすことは出来るが何らその實体を私たちの前に示
し示したことはない。

私たちはこのような日和見主義路線と一刻も早く誤
別し、寧ろ斗争路線を全學友の團結を基礎にうち
たこなくてはならないだろう。

2. クラスぐるみ斗いに決起し、斗争の内容を 豊かな生き生きしたものに！

（クラスの團結をかちとりクラスぐるみ斗いに決起する
ために）

A. 現在、我々学生に迫られた道は、留年か就職、進
級かの二つに一つかの道ではない。

我々の斗いの日程に鮮明にはっきりしている筑波粉碎、
学園民主化の課題たる6つの要求をかちとり、教育
大を新しい大学に変革してゆく斗いを妥協とあきら
めによじて回避してはならない。

つまり①斗う中で、中大・早大斗争の如く互いに
学び合い、同時に卒業し、進級しなくてはならない。
そのためには、斗いを個人個人の次元ではなく、何
よりも全体が團結し、統一されることが必要である。
②斗争に敗北をおしつけるような無展望なおしゃべ
りにふけり、盲動に駆られるのか。③「一般学生し
「良誠学生」の刻印をわざれて声なき声として反
テリゲンチャとしての自らの生き方を作りあげてゆ
くためにけオーの道こそが私たちの選ぶべき唯一の
道なのだ、ということを確認しよう。

B. 斗いの情勢は、まさに要求貫徹まで無期限ストを

も辞さぬ斗いを構築する必要を要求してい。しかし
ながら目的意識性、主体的能動性についての二つの傾
向兩極分解がある。一方では年生の卒業問題、単位
算主義の凶式化ができるよう、つまり言えば斗う程
度値が増大していく、という論理である。しかし我々
の戦いは單に教育大独自の問題ではないことは一貫して
我々が主張してきたところである。教育大ごと我々一人
一人が斗いに参加する中で筑波を粉碎し學園の民主化
をからと、いくことは全員の學友に対し、また、
祖國日本の将来に対する多大な意義があることを確
認しなければならない。（情勢部分参照）

単位問題も、卒業問題も、斗いを個人主義的レベル
に収束させるのではなく、個人個人が主体的に斗いに参
加する中で国語し統一された斗いの中でも解決され
よう。

C. 我々学生は社会に大きな責任をもつてゐる。将来
とも責任あるインテリゲンチヤとしての任務を果たし
我々自身の手で日本の独立・平和・民主主義を担へ
いくためにも教育大の斗争を積極的に斗おうではない
か。悔いなき青春期を過ごすためにも！

○あきらめと妥協を排し、クラスの斗争体制を強化しよ
う

○自主ゼミの強化 助手と共にカリキュラムを組み積
極的に自らの学問のあり方を追求しよう→民主化
への一つのアプローチ

文斗委事務局のクラス分断化路線 ひきまゆし路線と 月こそ説別しよう！

28日農学生大會において570名といつ圧倒的な學友が
決起し、試案を圧倒的多数で可決へ文斗委系諸君の討
案は圧倒的に否決（され、また理掌部に於ても、學生
大會の度に100名ずつ参加が小え、反動に攻撃を守え
いる）という状況から見たとき、さらにそれらの斗いが
クラスとの團結した力によじてかちとられた成果である
ことを考えた時、今文掌部の斗いの發展に最も大き
な困難となつているのは漢文一年などを除いてクラス
の團結がかちとれず登校する學友も日一日と減少しま
るという問題である。今、我々はこのような状況を作り出しきったものは何か、その原因を明確に把握し
克服してやかねばならない。

そのような状況を作り出した根源は、學内反動によ
る獎学金の支給停止、また千年生日懸念を利用してこの
切りくずしにありこれらは獎学条件を破壊し、生活破
壊を進めている反動勢力である。

しかしながら我々は斗いの中、反動のこうしに攻撃

と斗い團結を作りあげてゆく中で克服するという変革の立場に立たなくてはならぬことを考えた時、一總括

部分で明らかにしたように文斗委事務局の三無主義に

もとづく「指導」からにはその根本的な日和見主義路線、本館封鎖に象徴される代行主義に最大の責任があることを指摘しなくてはならない。

彼らには決して現在の困難を克服することは出来ないだろうし、斗争を勝利に導くことも出来ないのだ。

このことをは、ヨリ見すえ、斗争委員事務局の路線と指導者を解任し直に斗う斗争指導部を選出しきこ

うことはないか。

3. 全国の斗う学友と連帶してさらに安保破棄をめざす全人民と團結して斗おう！

これまで明らかにしてきたように我々の斗いの勝利への道はクラスぐるみ團結し全国構成員の統一した力で筑波粉砕と教育大民主化の権益を共に掲げて斗うこと——学内反動を教育大から放逐し、新たな大学の民主的自治制度を確立し、政府・文部省の反動的文教政策科學校政策と対決して斗う道以外にはありえない。

さらに10・21全国学生統一行動を斗った我々は確實な勝利のためには同様の手段をかかえその解決のため同一の敵——政府文部省と対決し、斗う全国の学友と團結し統一して斗わなくてはならないことを知っている。こうしてこそはじめて政府・文部省の強固な反動的文教政策を打ちくだりこじくことができるのだ。同時に我々は政府・文部省の反動的文教政策を安保条約の自動延長——侵略的強化を狙う日本の軍国主義、帝國主義復活の一環として位置づけるならば、そうした反動勢力の軍国主义復活、生活破壊の政策の下に、我々と同様に苦しめられている全この人民諸階層と團結し、お互いの要求を支持しあいながら、大きく安保条約の破棄をめざす壮大な斗争とともに決起しこゆくことが必須である。

安保破棄—諸要素貫徹中央実行委員会の主催により、11月3日に、安保破棄、沖縄三大選挙勝利、憲法改憲阻止、軍事基地撤去、ベトナム人民支援、佐藤内閣倒閣などのスローガンの下に開催される、11・3中央集会に至るまでの、学友は決起していこう。雄々しく躍進する全国連の旗の下に11・22オニ波全国学生統一行動に全国70万の学友と共に総決起しよう。

斗争スケジュール

10月31日 各クラス斗争体制強化／自主講座、学習会

（ラ討） 教室会議、教授オルグ

11月1日

2日 筑波斗争勝利をめざす政治集会（学習講演会、東大、日大、教育大斗争報告）

3日 11・3中央集会（安保破棄諸要素貫徹中央実行委主催）

4日 各クラスの行動

5日 全学集会→各学部毎に学部長宅へ要求行動、文部省反動教官自己批判、訴願要求行動

6日

7日 各クラスの行動

文部省教授会団交要求 許諾会団交要求行動

反動教官への要求行動

15日 文京三大学文部省抗議デモ（教大はオ三波）

22日 全学連全国学生統一行動

スローガン

■六項目要求実現まで
無期限ストで斗おう！

■クラスぐるみの斗争体制を
固め豊かな斗争内容を作りあげよう！

■引きまわし、分断化の斗争委
事務局路線を排除しよう！
本館封鎖即時解除！

■全国の学友と連帶し全人民
と團結し、11・3中央集会

11・22全国学生統一行動に
決起しよう！